

## StComm 会議報告

作成 180628

川口慎介

場所：ベルゲン大学（ノルウェー）

日時：2018年6月20～21日（22日エクスカージョンは川口不参加）

議長：Jérôme Dymont（仏、議長）、Kamil Szafranski（仏、コーディネータ）

委員：Daniel Sauter,（仏）、Nadine Le Bris（仏）、Peter Michael（米）、Mirjam Perner（独）、Sung-Hyun Park（韓）、John Kurian（印）、ZHANG Chuanlun（中、二票権限、一日目のみ）、Cedric Hamelin（ノ）、Stephane XXXXX（ノ、Ida Steenの代理）、川口（日）

オブザーバ（WG説明者）：Anne Briais（仏）、Thibaut Barreyre（ノ）

不参加メンバー国：英、加

## 議事要旨

### IR office の活動：

コーディネーターおよび各国代表から IR 関係の活動状況について報告があった。IR が運営する 2 つのデータベースを充実すべくデータ提供が求められた。CruiseDB については、事前の機会共有・事後のデータサンプル共有を目的としていると説明があったが、国内での調整が困難で事前に情報を出すことは不可能だという意見もあった。VentDB については、非常に多く利用されていること、利用に際しては引用を明記するよう指摘があった。IR info (隔週の ML) が機能しており、IR news (年イチ出版) については休止を検討している。

### WG：

事前にメールベースで議論を重ねた WG 新設について議論した。Islands & Seamounts について、Ridge ではないという意見があったが、Ridge で起こるプロセスの理解を目指すと考えれば許容できるとの意見があった。初版は 3 カ国のみで構成されており、国際化を求めたところ 20 名超の膨大なメンバーリストに改訂されたため、10 名程度のコアメンバーと他 10 名程度の co-group に再編成するよう求める条件付で、採択した。Sulfide resource について、IR と資源開発の関係性について議論が紛糾した。WG メンバーから企業人を削除すること、WG 設置が開発をサポートするわけではない旨を明記するという条件で、基本的には採択とし最終改訂を求めることとした。各国状況および WG の報告については下記の通り。

### 収支：

収支報告については、特に異議がなく了承された。航海参加および若手支援は今後も続ける予定。IR は米ドルベースで管理しているがオフィスが仏であるため諸経費がかかる旨の相談がオフィスから出たが、対応はオフィスに一任することとした。

### 今後：

次の Theoretical Institute, StComm, Next Office の主催について、それぞれ議論した。議長は欧州への集中を避けたいとの希望を述べた。TI については日韓から「議長国 (仏) での開催は問題ない」と意見があった。SC については「Tokyo がいい」という声が多かったので、持ち帰り検討すると返答した。Next office については未決だが、欧州が続くことに異論がなければノルウェーに決まりそう。

## 会議メモ

### ▶National Updates

日：沖野作成資料に加えて、日本のシップタイムの状況を説明。皆さん激減状況に興味津々。「ちきゅう」はどうなるのかと質問も。

米：トランジット削減のため線表を統一的に管理。調査は米周辺ばかり。NSFはケーブル観測重視。

仏：SWIRの軸部で「Old City Tower（炭酸塩の巨大チムニー）」を発見。潜水船ノチールの廃止について議論中。

印：CIRのセグメント2付近でブルーム検出。ROVなど潜航調査が出来ないので国際協力で進めたい意向あり。

韓：KIOSTがCIR、KOPRIが豪南東域。CIR11o08S-66o25EでブルームからTV grabまで。生物がいるのを見た。

中：「ちきゅう」より少し小さな「Dreamer」という掘削船

ノ：R/V Kronprins Haakon（ヘリポート・Class3 icebreaker・ムーンプール型ROV・2018から運用開始）

### ▶WG

IMOVE：モニタリングデータの解析に、アジアから積極的な参加を。

CircumAntarctic：現状の報告。

FZ：5月のWorkshop、アジア（日本？）からの参加が少なかった（JpGUと重複していたので、と説明した）

Seamount：上述の通り

Sulfide：上述の通り

### ▶その他

インド洋計画（IIOE-2）に関連してSCOR-IRのシンポを11月にゴアで開催。

Code of Conductについて生物学の技術進展に即した追記を行う（現状版の修正はしない）。CBE18@WHOIで関係者が議論しているのですぐ出来る。Nadineが取りまとめ担当。

IRの活動改善についてStComm開催前に英から意見メールがあったため議論を行ったが、特段の結論は出さなかった。